

5/15の説教要旨 「疑いながらも信じている」 富田正樹先生
出エジプト記 19 章 1 節～6 節

伊丹教会の皆様と共に礼拝を献げることができます恵みを感謝いたします。

学校で聖書という科目を担当していますと、生徒さんの様々な聖書に対する疑いをぶつけられることがあります。聖書の記事の中には、私達を困惑させるものも確かにあります。

例えば今回の聖書の箇所もその一つです。

ここは、神さまが「鷲の翼に乗せて」イスラエルをエジプトから救い出したという喜びの記事です。しかし、エジプト側から見れば、復讐であり報復です。

確かに、エジプトはひどい仕打ちをイスラエルに加えました。しかし、それに対する神の報復もかなり無残なものです。これは愛と平和の神のイメージと矛盾するのではないのでしょうか。

聖書の記事は、その時々社会、人々の思いによって「解釈」された神さまの像に従って記されています。今日お読みした聖書の箇所は、今から 3000 年ほど前のイスラエルによる「神解釈」の結果生まれた物語です。これが、およそ 2000 年前、イエスがこの世に現れるまでの、神に対する「解釈」だったわけです。

しかしイエスはこの「神解釈」に決定的な革命を起こしました。神は怒りの神でもなく、愛と赦しの神であることをイエスは証しました。そして、報復や復讐を否定し、敵を愛することを教えて下さいました。

これは、当時の現代の私達に対する挑戦でもあります。

現代、私達は、暴力と報復の世界に生きています。人間が人間に対して暴力を振るい、それに対して報復が行われ、今や現代世界は取り返しのつかない分断に陥ろうとしています。

かつて聖書は、民族と民族、国と国の分断を煽るような「神解釈」に基づいて記されていました。しかし、その「神解釈」はイエスによって覆されました。聖書に書かれてあったことを、イエスはひっくり返したのです。その結果、イエスは殺されてしまいました。

しかし、短期的には現実的ではないように思われても、長い目で見れば、イエスの教えは私達に平和の道を示してくれます。

私達は聖書の記事を、どこでも同じように正しいのだと読むわけにはいきません。時に疑いつつ読むことも必要です。それは特定の時代・社会に書かれた「神解釈」に基づく場合があるわけです。

時にはある聖書の記事を疑いつつ、しかしイエスの示してくださった、神の別け隔ての無い愛を信じつつ、歩んでまいりたいものです。

皆様はどのようにお考えになりますでしょうか。

